

# 北里大学におけるチーム医療教育プログラムの取組み

北里大学チーム医療教育委員会

## ◆はじめに

北里大学は、1962年に北里研究所創立50周年を記念して創設された。「基礎医学・化学領域の研究者・医療技術者の養成」を目的として衛生学部（化学科・衛生技術学科）1学部から出発し、現在では7学部・7研究科、2専門学校、3附置研究所、4大学附属病院を擁する総合大学として、生命現象の解明、疾病の予防・診断・治療、生物資源の活用、環境保全・創造などに取り組んでいる。

本学では、生命科学の総合大学としての特徴を生かし、「チーム医療教育プログラムの実践」を特色のある取り組みの一つとして掲げ、平成18年度から実施している。

## ◆背景・経緯

近年、医療技術の高度化・専門化が急速に進んでいること、また疾病構造や人口構造も大きく変化

しつつあることから、医療は複数の医療専門職でカバーしなければその実施は困難な状況といえる。さらに、医療に対する社会のニーズも大きく変化してきており、単に病気を治すばかりではなく、どのように診断・治療が行われるかというプロセスや心理的、倫理的、社会的な側面も含めた対応が必要になる等、医療の質が大きく問われている。

このように、患者を中心にした良質の医療を実践するためには、多種類の医療専門職の協働（チーム医療）が不可欠であり、そのための優れた人材の育成を目的としている。

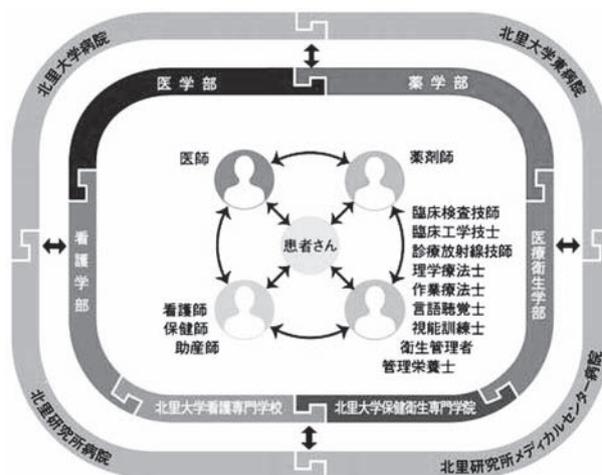
## ◆プログラムの概要

本学では、医療系の4学部（薬学部、医学部、看護学部、医療衛生学部）と2専門学校（北里大学保健衛生専門学院、北里大学看護専門学校）において、14に及ぶ医療専門職を育成する教育を展開している。また、大学附属の4つの病院（北里大学病院、北里大学東病院、北里研究所病院、

### 【チーム医療教育のSBO（到達目標）】

- ①患者の診療過程を理解し、そこに携わる職種を列挙できる。
- ②各職種の専門性、役割および責任を相互に関連づけて説明できる。
- ③チームで取り組むべき事例を挙げ、職種毎に問題点を明確化し、自らできることやるべきことを列挙できる。
- ④チーム医療とは何かを討議する。
- ⑤チーム医療の目標を説明できる。
- ⑥チームにおける患者の役割を説明できる。
- ⑦チーム医療の立場にたって、医療を考えることができる。
- ⑧チームの構成員とコミュニケーションできる。

北里大学における医療系教育



<講義内容（平成24年度）>

回	講義内容
1	<イントロダクション> 安全で良質な医療提供、チーム医療の必要性、意義
2	<保健・医療・福祉システム概要> 我が国の保健・医療・福祉システムについて、システム・成員の連携、外国との比較等
3	<専門職種の理解-1> 病院施設における様々な職種の役割およびそれらの職種がどのようなチームを構成し、医療の質と安全を保障しているかの解説
4	<専門職種の理解-2> 薬剤師と法、6年制薬学教育の概要、医療環境の変化と薬剤師、チーム医療における薬剤師の仕事、薬剤師としての医療への貢献等
5	<専門職種の理解-3> 健康科学科の概要と教育内容、取得可能資格、医療チーム内での位置付けおよび臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師の教育体系、役割、機能、権限、医療チーム内での位置付け
6	<専門職種の理解-4> 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士の教育体系、役割、機能、権限、医療チーム内での位置付け
7	<疾患と医療チーム-1> 北里大学病院の特徴と、チーム医療からみた北里大学病院の特徴
8	<疾患と医療チーム-2> 北里大学東病院の特徴と、特にクリニカルパス
9	<疾患と医療チーム-3> 北里研究所病院の特徴と、特にチーム医療病院実習
10	<疾患と医療チーム-4> 北里研究所メディカルセンター病院（KMC病院）の特徴と、地域医療支援病院におけるチーム医療（大学病院との相違等）
11	<腎代替医療における医療チーム> 腎代替医療、特に腎移植におけるチーム医療の大切さとその構成について解説
12	<チーム医療教育プログラムの目指すもの> チーム医療の重要性と意義とを踏まえた上での、本学のチーム医療教育プログラムの全体像の把握と総体として何を目標しているのかの理解
13	<医療安全> 医療におけるリスクマネジメント
14	<医療倫理> 臨床場面において患者さんの人権を尊重するチーム医療の倫理と、そこに生じるジレンマについて考える
15	<コミュニケーション論> 専門職間のコミュニケーション、患者とのコミュニケーション、患者の心理、言語・非言語コミュニケーション等

北里研究所メディカルセンター病院）と連携した臨床教育も大きな特徴となっており、医療系教育を行うに際し好適な環境下にある。このような特性を活かし、3つの取り組み（チーム医療論、チーム医療演習、チーム医療病院実習）を柱とした、学部横断型のプログラムを展開している。

**（1）チーム医療論**

チーム医療論は、平成20年度に開講した学部横断型の講義科目（1年生対象、履修者約1,000名）である。本講義における教育目標は、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画し、より安全で質の高い医療を実践できるように、医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割、医療倫理をはじめとしてチーム

医療に関する基本的知識を修得することにある。

学生が本講義で学んだ知識とチーム医療に関する認識を、高学年で行う「チーム医療演習」において発揮し、社会に出てからの糧とすることを、最終的な目的と位置付けている。

**（2）チーム医療演習**

チーム医療演習は、平成18年度から実施している演習プログラムであり、他職種の知識・技術、職能等を理解させ、職種間の相互理解と連携、協働できる能力や患者を総合的に診る能力を学生に身につけさせることを目的としている。

毎年5月の連休を利用し、2日間にわたり行っている。医療系学部及び専門学校の高学年次の学生（約1,000名）が、10名前後の混合チーム（約

＜演習テーマ一覧（平成 24 年度）＞

①救急医療	心筋梗塞患者の急性期治療
②大災害時の医療	大災害時の避難所における維持医療
③感染	院内感染対策
④がん医療 1	食道がんに対する集学的治療
⑤がん医療 2	末期がん・骨転移
⑥在宅療養	多発性硬化症の長期在宅療養
⑦高齢者医療	脳梗塞後遺症
⑧生活習慣病	メタボリックシンドローム
⑨周産期医療	妊娠高血圧症候群と脳血管障害

※テーマごとに医療の現場で想定される詳細なシナリオが設定されており、それに基づきディスカッションを行う。

100 チーム) に分かれ、それぞれにテーマ・シナリオが与えられる。

シナリオには、具体的な症例や疾患に係るデータが提示されているほか、患者の嗜好、家族や仕事の状況などの細かい背景も記載されており、学生達はこのシナリオに基づいて、問題点はどこか、どのような対応が可能なのか、チーム医療としてどのように取り組むべきか、などについてディスカッションを行い、意見をまとめていく。最終的には、チームごとに討議の結果を発表する。

各チームには教員が 1 名ずつファシリテータとして配置されるが、原則として議論は学生達のみで役割分担をして行い、ファシリテータは議論の停滞時等に必要に応じて手助けをするなど、サポートがその役割である。

演習後のアンケート結果によると、学生の総合評価（満足度）における「満足」と「まあ満足」の合計は例年 90% を超えており、学生の満足度も非常に高い。これは、学生が本演習の趣旨を理解し、課題に真剣に取り組んだ結果であると推察できる。

演習の準備には半年以上の期間を設け、また、教員・職員も併せて約 120 名が実施に関わるなど、全学を挙げた一大事業となっている。

＜ディスカッション＞



＜発表会＞



（3）チーム医療病院実習

チーム医療病院実習は、本学附属の 4 つの病院において行われる実践的なプログラムであり、平成 22 年度から開始した。

実際の臨床現場におけるチーム医療を学ぶことを目的としており、希望する学生（対象はチーム医療演習を履修した学生）が、8 月の夏季期間を利用し参加している。

実習プログラムの設定は各病院に協力を求め、

平成 23 年度は各診療科等で 29 に及ぶ多様なプログラム（例：糖尿病外来リアルタイムチーム医療、栄養サポートチームなど）を準備した。

一方、参加学生数は延べ 58 名（平成 23 年度実績）に留まっているが、参加した学生からは「情報をリアルタイムで共有することの重要性を実感した」「医療現場のスタッフの高いプロ意識を学んだ」などの感想が寄せられており、学生の満足度は高い。今後さらに多くの学生が参加できるよう、周知等を行う必要がある。

### ◆今後の方向性

本学のチーム医療教育プログラムについては、

「チーム医療演習」を中心に、導入教育である「チーム医療論」、発展教育である「チーム医療病院実習」と段階的に充実を図ってきた。

次のステップとしては、ロールプレイによる「模擬チーム医療演習」の実施や「チーム医療に関する文献講読」、地域の医療現場（地域診療所、保健所、老健施設、患者宅等）と連携した「地域連携型チーム医療教育」などが学内からも提言されている。

特に地域連携型チーム医療教育については、学生教育と地域貢献の両面からその重要性は高いと考えられるが、学内のカリキュラムの調整、現場との調整事項などの課題も多いと認識されており、本学のチーム医療教育委員会を中心に、継続して検討を進めているところである。